

平成24年度一般会計当初予算説明資料

4款 衛生費

1項 公衆衛生費

健康政策課（内線：7861）

9目 生活習慣病予防対策費

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
（新）がん検診受診率向上緊急プロジェクト ～ほっと安心！みんなで“はじめる・つづける”がん検診～	10,812	0	10,812	4,655			6,157	
トータルコスト	23,686千円（前年度 0円） [正職員：1.6人]							
主な業務内容	がん検診啓発業務、がん検診体制整備業務、関係団体との調整業務							
工程表の政策目標(指標)	がん対策の推進、がん死亡率の減（平成19年度を基準とし、10年以内に20%減及び全国平均以下）							
事業内容の説明								
<p>1 事業の目的・概要 平成22年6月に制定した「鳥取県がん対策推進条例」を契機に新設した「鳥取県がん対策推進県民会議」の意見及び本県のがんの実情等を踏まえ、がん死亡率減少に向けた効果的な対策として、がん検診受診率向上対策事業の強化を図る。 平成24年度は、企業へのアプローチ、乳がん検診、がん教育推進に主眼をおいた取組を行う。</p>								
<p>2 主な事業内容 (単位：千円)</p>								
区分	事業内容							予算額
（新）特定健診・がん検診同時受診体制整備事業	事業所等で特定健診を実施する場合に、がん検診を同時に受診できる体制を整備し、特定健診、がん検診の相互の受診率の向上を図る。 【実施機関】 県内検診機関							2,470
（新）レディース検診推進事業	平成24年度のモデル事業として、休日に乳がん検診、子宮がん検診を同時に受診できる体制を整備するとともに、乳がん自己触診法の啓発を図るための講習会を実施する。 【実施機関】 県内検診機関							840
（新）乳がんピンクリボン運動推進事業	各福祉保健局が中心となり、圏域単位で市町村及び乳がん患者会及び各種団体と連携した乳がんピンクリボン運動（乳がん検診普及啓発）を行う。特に、乳がん自己触診の重要性を広くPRする。							2,603
（新）出張がん予防教室がん予防学校教育キックオフ事業	がん予防については、成人はもとより、子供のころからの正しい知識の普及が重要であり、平成23年度より「出張がん予防教室」を開始したところだが、学校現場での実施は平成24年度から開始する予定であり、そのキックオフイベントとして、中学生を対象に、著名な特別講師を招いてがん教室を実施する。							899
（新）検診受診率向上戦略研修会	がん検診受診率向上のため、市町村及び各保険者等の検診担当者を対象に、未受診者を受診行動へ誘引するノウハウを学ぶ研修会を開催する。							400
（新）がん検診受診率50%超チャレンジ支援事業	検診受診率50%達成を目指した効果的な啓発について、専門家からの助言及び取組み支援が受けられるよう、市町村に対する支援を行う。また、この支援を受け、市町村が新たな取組みを行う際に必要な経費について支援する。 【実施主体】 モデル的に取組む市町村（3団体） 【内容】 ・市町村に対する専門家からの助言 ・市町村の新たな取組みに対する支援 (1/2補助、1団体50万円上限)							3,600
合計								10,812

3 これまでの取組状況、改善点

(1) 取組状況

がん検診受診率向上（がん検診受診率向上プロジェクト2011）

がん検診の受診率50%を目標に、普及啓発及び受診しやすい体制強化を図った。

○普及啓発：がんフォーラム(11/19)、テレビ、ラジオ、新聞を連携させた総合啓発キャンペーン等

○体制強化：休日がん検診支援事業、がん検診推進パートナー企業の認定、出張がん予防教室の実施等

(2) 主な改善点

ア 企業へのアプローチ

事業所等で特定健診とがん検診を同時に受診できる体制を整備することで、正規従業員のみならず、パートなどの非正規従業員についても、職場で国保等の特定健診とがん検診を同時に受診することができ、未受診者の受診につなげる。あわせて、がん検診未実施事業所へのアプローチを通じて、従業員に対して、検診の重要性を啓発する。

イ 乳がん検診推進

特に子宮がん検診と同時に受診できる医療機関が少ないことが受診率低迷の一因となっている可能性があることから、休日に同時受診が可能な「レディース検診」体制を整備することにより、受診率向上を図る。

あわせて、乳がんは自分で発見できる唯一のがんであることから、自己触診法の啓発を行う。

ウ がん教育の推進

がんの死亡率減少のためには、がんになりにくい生活習慣を身につけることが大切であるが、生活習慣（たばこ、食事、運動）や検診の重要性については、子供のころから正しい知識を持つことが重要であるため、学校の健康教育の一環として、まんがを活用したわかりやすい教材によってがん予防教室を実施する。